



2日目に訪れたJR日本最南端の駅として知られる西大山駅。ホームからは開聞岳の絶景が望めた = 鹿児島県指宿市

JRの人気商品に普通列車（快速を含む）の普通車自由席が乗り放題になる「青春18きっぷ」があります。毎年春、夏、冬に発売され、1日乗り放題が5回（入分で1万2050円。名前に青春18とありますが、年齢に関わらず誰でも利用できます。「青春がもう終わっているかもしれないあなたも大丈夫」との声に押され、ぐるり九州一周、2泊3日の旅に出掛けました。

青春18きっぷの旅

ぐるり九州一周してみました

「さて、どこに行こうか?」。最初に頭に浮かんだのは東京往復ですが、ざっと調べてみると、普通列車に乗りっぱなしで片道1日半、往復で3日。「さすがにしんどいだらうな」と思い、休日数の都合もあって諦めました。大阪・京都から山陰を回って佐賀に戻るルートなども考えましたが、初心者でも十分余裕をもって楽しめそうな九州一周にチャレンジすることにしました。乗り換え案内アプリやネットの時刻表を駆使して2泊3日の大まかな旅程を組み、早速、佐賀駅のみどりの窓口で青春18きっぷを購入しました。



普通列車でのんびりと各県の魅力満喫

【旅を前に】
2泊3日で大まかな旅程を思案



別府温泉で気分すっきり

【1日目】
佐賀〜福岡〜大分

あ、佐賀駅から出発です。当初、午前7時2分発の吉塚行きに乗るつもりでしたが、早めに駅に行き、ホームに上がると、ちょうど6時47分発の門司港行きが滑り込んできました。中をぞくと誰もいません。「ゆっくり座れるな」と思い、飛び乗ってしまいました。

同じ車両に乗っている人は自分を含めて7人。外はまだ真っ暗で、半分以上の人が目を閉じてじっとしています。スマホで時刻表を調べると、日豊本線への乗り換え駅、西小倉の到着は、当初予定した快速への乗り換えにはかきません。鳥栖で下車し、久留米方向から来る7時28分発門司港行き快速に乗る方がよさそうです。

この日は平日で、鳥栖駅の乗り継ぎホームに行くのと、列車到着までまだ10分以上あるのに、乗車位置にはすでに人が立っていました。自分は2番目で、列車到着と同時にさっと中に入ると、ギリギリ座ることができました。基山あたりからは通勤ラッシュで満員に。博多でほとんどの人が降り、その後はゆったりとした感じになりました。

朝早くから動いており、「朝ごはんを食べたい」と思いました。頭に浮かんだのは「折尾のかしわめし」です。この快速、折尾には9時2分到着で、さっと食べて後から来る9時32分発に乗れば、西小倉には9時54分着。当初予定した日豊本線9時57分発の中



日豊本線で大分方面へ。別府駅には昼すぎに到着した



別府駅前には、源泉かけ流しの「手湯」があった



「血の池地獄」はその名の通り真っ赤だった = 大分県別府市



折尾駅名物のかしわうどんとミニかしわ。合わせて630円



大分駅の飲食店で頼んだ「ちよい呑みセット」。とり天と生ビールで980円



中津駅の改札口近くには福沢諭吉の紹介コーナーがあった

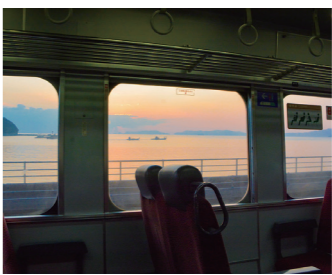
津行きには十分間に合いそうです。折尾駅到着と同時にホーム下へ。階段を下りると、お店はすぐ目の前にありました。先に食券を買うスタイルで、かしわうどんが400円、ミニかしわが230円。迷わず両方とも選択です。ミニかしわはすぐに来ました。のり、錦糸卵、かしわの3色が美しく、四角い器に結構たくさん入っています。熱々のうどんを一気にすすると、体の中から温まりました。器を手に持ち、つゆを全部飲み干して大満足です。折尾から西小倉へ行き、予定通りの中津行きに乗り。中津での乗り換えは15分ほどの待ち時間があり、改札口近くに飾られていた福沢諭吉（中津藩出身）の資料を見てから大分方面行きに乗り込みました。車窓からの景色を楽しみつつ、佐賀駅出発から約6時間、最初の目的地・別府に到着です。

「さて、どうしよう?」。まだおなかはずいといないので、温泉に行くことにしました。駅から5分、事前に場所を調べておいた「不老泉」という市営温泉です。お風呂で入浴中の人は5人ほど。お湯が熱めだったので、ときどき湯船の端に座ったりしながら、30分ほど温泉を楽しみました。すっきりしていい気分です。入湯料は250円と格安でした。

何かインパクトのある写真を撮りたいなと思い、次に向かったのは「血の池地獄」です。路線バスに揺られて約30分、人気の観光地とあって外国の方もいっぱいでした。帰りのバスがJR亀川駅に止まったので、ここで降り、初日の宿泊地と決めていた5駅先の大分に向かいました。到着後、駅ビルの飲食店で早めの夕食です。「ちよい呑みセット 生ビール&とり天(3本)」を頼みました。もうちょっと食べたいなと思い、タルタルソースたっぷりのチキン南蛮と芋焼酎のロックを追加注文。ほろ酔い気分です。まずは1日目終了です。



午前6時前の大分駅。外は真っ暗でも駅構内は人が増え始めていた



早朝に大分を出発。車窓からは朝日を浴びてキラキラ輝く海が見えた



指宿駅は指宿枕崎線の主要駅の一つで、観光客も多かった



西大山駅の「幸せを届ける黄色いポスト」。表示板には「愛、幸福…あなたの想いを贈りましょう!!」とあった



宮崎駅で購入した名物駅弁「椎茸めし」。椎茸は肉厚で旨み十分だった



鹿児島に近づく、車窓からは噴煙とともに桜島を望むことができた



JR日本最南端の駅、西大山駅。近くの畑には早くも菜の花が咲いていた



ご当地グルメの黒豚とんかつは納得のおいしさだった

JR日本最南端の西大山駅 開聞岳の絶景に感嘆

【2日目】 大分〜宮崎〜鹿児島

この日は、旅の前から分かっていた「大移動日」です。大分から宮崎を経て鹿児島に入り、日本最南端のJR駅で、薩摩富士と称される開聞岳の絶景が望める西大山駅（指宿市）まで行く計画です。

そもそも今回の旅は「青春18きっぷだけで九州一周したい」と考え、見切り発車的に始めたのですが、調べていくうちに、普通列車がほとんど走っておらず、乗り継ぎがどうしてもうまくいかない区間があることが分かりました。そうした区間はJR特急や他の交通手段で代用したため、厳密に言えば、「ほぼ青春18きっぷの旅」になっています。早め早めの行動を心掛けようと、午前5時50分にホテルを出発。超駅チカのホテルだったので、わずか3分で大分駅到着です。青春18きっぷは自動改札機を通せないため、その日最初に乗車する駅で日付入りの丸印を駅員さんに押しってもらう必要があります。駅員さんに「2日目ですね」と声をかけられ、「はい、頑張っています」と返事し、元気がいっぱいに出発しました。

大分から佐伯、佐伯から延岡、延岡から宮崎、宮崎から西都城、西都城から鹿児島中央と連続して乗り換えました。最初にお話した通り、乗り継ぎがうまくいかない区間があり、佐伯―延岡、西都城―鹿児島中央は、別にその区間の乗車券と特急券を買い、特急で移動しました。それでも鹿児島中央駅への到着は午後2時28分になりました。西大山駅に行くには、ここから指宿枕崎線に乗り換えです。時刻表をチェックしましたが、これも乗り継ぎが悪く、このままでは日没までに到着できそうにありません。それでは、ここまでの苦勞が台無しです。

「これまた仕方ない」と自分に言い聞かせ、奥の手のタクシー移動を選択です。指宿駅で下車し、駅前に止まっていたタクシーに飛び乗りました。運転手さんに尋ねると、「西大山まで15分で行けるよ」とのこと。これで日没前に到着できそうです。運転手さんは地元の方で、「開聞岳は」いろんな方向から見ると、西大山からが一番形がよく見える」と教えてくれました。駅には観光客が大勢来られていましたが、交代交代で夕日を浴びて輝く開聞岳を撮影。自分が乗車する4時56分、鹿児島中央駅への到着もバッチリ撮影し、この日のミッションはこれで達成です。

鹿児島中央まで戻り、ホテルのお風呂にゆっくり浸った後、名物の黒豚とんかつを食べに近くの店に行きました。一日で8時間半、列車に乗っていた計算で、最後の西大山到着が綱渡りだったこともあり、やり遂げたという満足感がありました。

復活遂げた熊本城天守閣の威容に感動

【3日目】 鹿児島〜熊本〜長崎〜佐賀

よいよ旅も最終日です。この日も午前5時台から動き始め、ホテルから徒歩で鹿児島中央駅へ。鹿児島本線沿りの始発、5時57分発川内行きに乗車しました。ちょうど50分です川内に到着です。

ここも最初から分かっていたことですが、九州新幹線開業で川内から八代までは並行在来線としてJRから経営分離されており、三セク運営の「肥薩おれんじ鉄道」を利用するしかありません。日の出前でまだ暗く、「眠いなあ」と思っていたのですが、車両を見た途端、一気に目が覚めました。外も中も人気の「くまモン」づくしです。折角なので、くまモンの大きな人形が置いてある前の席に座りました。

自分と同じように何枚も写真を撮られている人がいらっしやいます。途中の駅で、2両のうち1両が切り離されました。よく知られていることですが、ずっと海岸線を走り、車窓からの素晴らしい景色が旅情をかきたててくれます。

八代でJR普通に乗って北へ。熊本到着は10時38分でしたが、到着ホームの次の列車が、熊本―鳥栖間を運行し、今年3月の引退が決まっているSL人吉だったため、親子連れと一緒にその到着を待ち、カッコいい姿を写真に収めました。熊本でぜひやりたいと思ったのは、熊本地震か



肥薩おれんじ鉄道の車両は、外も中も「くまモン」で彩られていた



かつての威容を取り戻した熊本城。天守閣からは市内を一望できた



熊本名物のタイビーエン。具だくさんで食べ応え十分だった



長洲港から有明フェリーで長崎県側へ。45分の船旅を楽しんだ



熊本駅では今年3月の引退が決まっているSL人吉も撮影した

ら復活を遂げ、かつての威容を取り戻した熊本城の天守閣に上ることです。7年ほど前、地震直後の凄惨な状況を見ていただけに、「よくぞここまで。関係者の労苦は相当なものだったはず」と頭が下がりました。熊本のご当地グルメ「タイビーエン」も熊本駅でおいしくいただきました。

これまた旅の前から自覚していたことですが、このまま鳥栖まで上って佐賀に戻ったのでは、長崎を通過したことになりません。そのため、ここも強引な奥の手ですが、長洲駅で降り、タクシーで有明海沿いの長洲港へ。そこから有明フェリーで対岸・長崎側の多比良港に渡りました。さらに島原鉄道で諫早へ。駅舎は西九州新幹線開業で真新しく立派なものになっていました。諫早からは長崎本線沿いに乗車。肥前浜で乗り継ぎ、肥前鹿島、江北などを経て午後7時32分、佐賀に戻ってきました。

2泊3日、ざっくりといった感じではありませんが、これで、ぐるり九州一周の旅の完結です。

旅を終えて

2泊3日の旅を終え、あらためて感じたのは、旅の計画を立てるのがとても楽しいということです。「あそこに行こう」「あれを食べよう」と思案するだけで、ワクワクします。今回、乗り継ぎがうまくいかない区間がありました。乗る鉄道の友人に尋ねたところ、「JRだけでなく、肥薩おれんじ鉄道や島原鉄道なども乗り放題になる」「旅名人の九州満喫きっぷ」というのがあることを教えてくれました。さらに、「旅はうまく行かず、ちょっとトラブルがあったほうが記憶に残る」とも。それもそうだなと思いました。さらに余談ですが、2回(人)分残ったチケットは、別日に家族と日帰りで下関の唐戸市場まで行き、おいしい海鮮をいただきました。



旅のスタート佐賀駅から。午前6時47分発の門司港行きに乗車した



指宿枕崎線の喜入駅。運行しているのは黄色のディーゼル列車が中心だった



熊本城には天守閣復活を祝う横断幕も掲げられていた



臼杵駅の駅名標。「U+♡」で「うすき」と読ませていた

2024年 青春18きっぷの発売期間・利用期間 (予想)

	春季	夏季	冬季
発売期間	2/20~3/31	7/1~8/31	12/1~12/31
利用期間	3/1~4/10	7/20~9/10	12/10~1/10

※発売期間・利用期間は例年、JR各社が2月上旬までに発表

1日目

東京の自宅→名古屋→彦根
名古屋では栄(名古屋の中心地)を回り、知人と食事
彦根のネットカフェで宿泊

2日目

彦根→京都
嵐山などを回り、京都の友人宅に泊めてもらう

3日目

京都→大阪
大阪の知人と梅田でランチ
新大阪の友人宅に泊めてもらう

4日目

大阪→岡山
岡山のネットカフェで宿泊

5日目

岡山→博多→佐賀
博多で知人と夕食
佐賀の実家に到着



帰省旅の起点となった東京駅。5日間、旅を楽しみながら佐賀の実家に戻った

自分「青春18きっぷ」で東京に行くのを諦めましたが、東京から佐賀まで青春18きっぷで帰省したというAさんの話を聞く機会に恵まれました。以下、Aさんの5日間の帰省旅です。

「青春18きっぷ」で東京から佐賀へ 佐賀市出身Aさん、5日間の帰省旅



車窓からは海の景色などが楽しめた

Aさんは20代半ば、青春18きっぷを使った旅は5回目です。一人旅が多く、飛行機で四国・高松に行き、そこを起点に四国周遊を楽しんだこともあります。お金をあまりかけず、全国を回ることができ、青春18きっぷの旅を気に入っています。

今回は、佐賀への帰省が最終目的ですが、旅程にあるように、あちこち立ち寄り、友人らと楽しい時間を過ごしました。さすがに東京への戻りは飛行機を利用したとのこと。青春18きっぷを使うときの裏技として、目的地の一つ手前の駅で降り、一駅分歩くことが多いそうです。そうすることでいい出会いや発見があります。